

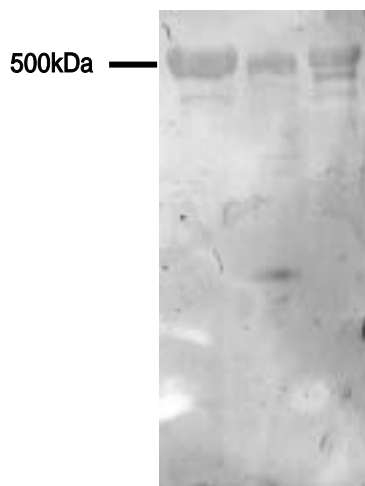
抗ラットダイニンポリクローナル抗体

細胞質ダイニン (cytoplasmic dynein) は、哺乳動物の脳神経系の発生と正常な機能に必須の役割を持つモータータンパク質です。ダイニンは細胞内において、微小管と相互作用をして、物質輸送や細胞の極性決定に関与していますが、複雑な複合体を形成することや分子量が大きいことから、未だ不明な点があります。

近年、ダイニンの ATP 結合部位とされる P-loop が同定されました。この P-loop は、ダイニンのモーター駆動のエネルギーを生み出す ATP 加水分解作用において重要な役割をしていることが明らかになってきました。本抗体はその P-loop 近傍において、最も抗原性が高い部位を抗原ペプチドとして用い作製いたしました。

本抗体はダイニンの運動機能への影響、局在性を調べる上で有用です。

容量	25 μ g (100 μ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2% ブロックエース (安定化蛋白)、0.1% proclin 含有]
保管方法	- 20 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	ラットダイニンの部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	ウェスタンブロットティング: 0.5 ~ 2 μ g/mL



ウェスタンブロットティング

Sample :

ブタ脳細胞質ダイニン
テトラヒメナ繊毛軸系 14S ダイニン
テトラヒメナ繊毛軸系 22S ダイニン

提供:

東京大学 大学院 総合文化研究科 広域科学
豊島 陽子 先生
小林 琢也 先生

抗ラットダイニンポリクローナル抗体

【参考文献】

1. Gibbons I.R.:Proc. Natl. Acad. Sci. USA 1963,50,1002-1010
2. Hirokawa E, et al.: Proc Natl Acad Sci USA 2000 Mar 14;97(6):2533-7
3. Shirogushi K,et al.: Cell Motil Cytoskeleton 2002 Aug;49(4):189-99
4. Toyoshima YY.: J Cell Biol 1987 Aug; 105(2):897-901
5. Toyoshima YY.: J Cell Biol 1987 Aug; 105(2):887-895
6. Vale RD, et al.: Cell 1988 Feb 12;52(3):459-69
7. Shimizu T,et al.: Biochemistry 1995 Feb 7;34(5):1575-82
8. Yu H, et al.: J Biol Chem 1992 Oct 5;267(28):20457-64
9. Lacey ML,et al.: J Biol Chem 1992 Mar 5;267(7):4793-8

製造元

 **株式会社トランスジェニック**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp